

## 特定の話題

対策本部からのお知らせ

救援ボランティア募集

受け入れ相談可能な病院



## 対策本部からのお知らせ

対策本部では、医療機関からの受け入れやボランティアの登録が始まりました。連日、会員が、輪番で詰め、被災地域会員からの電話や、全国の会員からのメールや電話や FAX への対応をしています。

受け入れ相談可能な病院アンケートには、協会会員のみならず、院長自ら受け入れのご意向をお寄せくださっているものもあり、ソーシャルワーカーとして、今、何が出来るか、考えずにいられません。

平成 23 年 3 月 29 日。笹岡会長、武山氏が、被災地(宮城県)入りをしました。宮城県庁の関係部署等へのご挨拶を終え、複数の避難所を訪問させていただきました。

現地の状況を肌で感じ、情報を収集し、現状分析を始めているところです。体制作りを模索しています。ボランティアニーズも刻一刻と変化していきます。必要な支援をタイミング逃さず行っていきたいと思えます。現地では、医療職と MSW との連携の必要性から、ボランティア活動の具体的な要請が複数あります。

現在、調整中のものをご紹介します。

### 1. 石巻市役所からの要請

#### 川南地区遊楽館避難所

医師・看護師が支援しているが、重症度の避難者への心理社会的対応のニーズ充足が必要である。特に、重度要介護者が集中している避難所での支援活動。緊急要請したい旨。

緊急度:至急

活動のクール:3~4 日をワンクール  
近日中に、協会員ボランティアによる現地対策本部立ち上げる予定。

### 2. 仙台市内で支援活動する

#### リハビリテーション医師・関連職種団体から支援要請

リハビリテーション専門医・PT・OT と MSW がチームを組んで、避難所生活をする被災者の生活の再構築への支援。支援機関は 10 カ月程度と想定。一時的な支援では解決しないため、長期間、チームでかかわっていくことが重要。

支援機関:長期

4 月 3 日~10 カ月程度

現地に入られている会員からの情報提供によると、避難所での生活では身体を動かすことができず、廃用の進行や、浮腫がみられる方も増えてきているそうです。医療ソーシャルワーカーの専門性を発揮して、貢献できることを模索していきましょう。

現地に入った医療ソーシャルワーカーとして、緊急性の判断をし、専門職団体としてできることを、形にしていこうとしています。多くの会員の方々のご協力と、ご理解を得ながら、支援の輪を広げていきましょう。現地にいける会員だけとは限りません。皆様方の温かいご意見や具体的な提案が現地で被災しながら業務を行っている専門職を支えることになると考え走りながら考えております。共に協力し合いながら、今回の状況を乗り越えていきましょう。

## 義援金及びボランティア募集

### <義援金募集について>

当協会では義援金募集も開始しております。  
郵便振り込み口座

#### 当座預金

口座名義:  
日本 MSW 協会災害支援金

口座番号:  
00100-1-89515  
3月25日現在 641,000円

### <ボランティア募集>

#### ①当協会事務所での当番ボランティア

時間:10時から17時(都合の良い時間  
でご協力ください。)

#### ②被災地の避難所の相談所でのボランティア

要請があれば直ちに派遣。社会福祉専門職団体協議会の4団体で協力体制を

とって派遣します。(詳細はホームページに掲載いたします。)



## 受け入れ相談可能な医療機関一覧(2011/03/29 現在)

本コーナーのデータは、協会ホームページ PDF にて随時更新しております。

## 今後の活動の方向性

平成 23 年 3 月 29 日。  
笹岡会長、武山氏が、被災地（宮城県）入り。自治体との連携及び関係団体との連携により情報収集・現状分析。

平成 23 年 4 月 1 日  
緊急対策会議  
18:30～協会事務所にて

平成 23 年 3 月 30 日  
ソーシャルケア従事者研究協議会との連携会議への参加

平成 23 年 4 月～  
現地ボランティア派遣

現地ボランティア  
14 名登録  
事務所ボランティア  
23 名登録

ボランティア活動をしてくださる方を募集しております。よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

## ボランティアの声

3月29日、日本協会地震対策本部にて災害ボランティアを行いました。まだまだ手探りの状況下での対策本部であり、『MSWという専門性を生かしたボランティアとは何か？』を考えながらの業務でした。しかし、被災地ではない人間がどこまで考えることができるのか、何ができるのか、専門職としての考え以前

に、1人の個人としての思いが強かったのかも知れません。おせっかいではなく、被災された方々に本当に必要な手を差し伸べ、ソーシャルアクションを行っていくためには、これからの時間が勝負です。1次的、表面的な動きに留まらず、復興を目指す支援の為に、声を聴く姿勢と、様々なアイデアが必要です。

これからも対策本部でのボランティアを継続していきます。MSWとしてできる『聴く』を、自分のできることの足掛かりとして、これからの考えていきたいと思えます。

医療法人社団 青い鳥会  
MSW 池田 岳司

日本医療社会事業協会  
〒162-0065  
東京都新宿区住吉町8-20  
四谷ヂンゴビル2F

電話  
(03)5366-1057

FAX  
(03)5366-1058

電子メール  
[jaswhc@d3.dion.ne.jp](mailto:jaswhc@d3.dion.ne.jp)

東日本大震災災害対策本部

電話  
(03)3351-5038

電子メール  
[dsstsw@jaswhs.or.jp](mailto:dsstsw@jaswhs.or.jp)

## おわりに

地震発生後、刻一刻と変化する現場の状況に、MSWとして今出来ることは何なのか。協会としても今出来ることの最大限を被災者の為に役立てたいと心から願い、そして行動していこうと思う。

今後、MSWの多くの方の協力が必要となることは明らかです。1人でも多くの方のボランティア参加を

待っています。

---

Web サイトにてお待ちしております。

Web サイト アドレス:  
<http://www.jaswhs.or.jp/>

---



JASWHS 社団法人 日本医療社会事業協会  
Japanese Association of Social Workers in Health Services